

ドライブシールド SS 3.1

# インストール／操作ガイド

Ver2.1.12

20140303

株式会社アイ・ディ・ケイ



## 目次

必ずお読みください .....	1
1 ドライブシールド SS とスマートコントロールの共存について .....	1
2 電源オプションについて .....	1
3 ライセンス認証について .....	2
3.1 クライアントからインターネット経由でライセンスを認証(単独認証) .....	2
3.2 スマートコントロールからのライセンスを認証(一括認証) .....	2
3.3 インターネット環境が無い場合や、Proxy 環境での認証(手動認証) .....	2
4 スマートコントロールとの接続条件に関して .....	2
5 ドライブシールド SS のアンインストールについて .....	3
6 Windows Update 連携機能に関して .....	3
7 システムの復元機能に関して .....	3
8 Windows 8 へのインストールについて .....	4
はじめに .....	5
1 ドライブシールド SS とは .....	5
2 動作条件 .....	5
3 主な機能一覧 .....	6
4 スマートコントロールについて .....	7
5 試用版について .....	7
プロテクトモードの基本概念 .....	8
インストール方法 .....	9
1 ドライブシールド SS のインストール方法 .....	9
2 スマートコントロール側のインストールと設定方法 .....	20
3 手動認証によるインストール後の認証作業 .....	21
アイコンの説明 .....	26
各機能の操作方法 .....	27
1 ドライブの保護 .....	27
1.1 プロテクトの状態 .....	27
1.1.1 プロテクトモードにする方法 .....	27

1.1.2	プロテクト解除モードにする方法	29
1.2	一時保存領域	30
1.2.1	一時保存領域のサイズ変更方法	30
1.3	仮想ドライブ	31
1.3.1	仮想ドライブの作成	31
1.3.2	仮想ドライブのマウント解除／マウント	33
1.3.3	仮想ドライブのサイズ変更	34
1.3.4	ドライブレターの変更	34
1.4	特定のドライブをプロテクトにする	35
1.5	Optional Directory Protection (ODP)	37
2	制御機能	38
2.1	ロックアウト設定 (USB/1394/Firewire ブロック/ステルスモード)	38
2.1.1	USB ブロック	39
2.1.2	1394/Firewire ブロック	39
2.1.3	ステルスモード	40
2.2	Windows Update 連携	41
2.3	アプリケーションの禁止設定	44
3	電源設定	45
3.1	ログオフを再起動へ変更する (ログオフ時の動作設定)	45
3.2	再起動する時間を設定する (デイリー・リブート)	46
3.3	指定日時に自動シャットダウンを設定する (節電設定)	47
4	管理設定	48
4.1	スマートコントロールとの接続	48
4.2	パスワード変更	49
4.2.1	パスワードを変更する方法	49
4.2.2	機能毎にパスワードを設定する	50
4.3	設定画面を開く際にパスワード入力を求める (セキュリティ設定)	51
	コマンドライン	52
1	ctsrcmd の詳細	52
2	具体的な使用例	56
	アンインストール	57

# 必ずお読みください

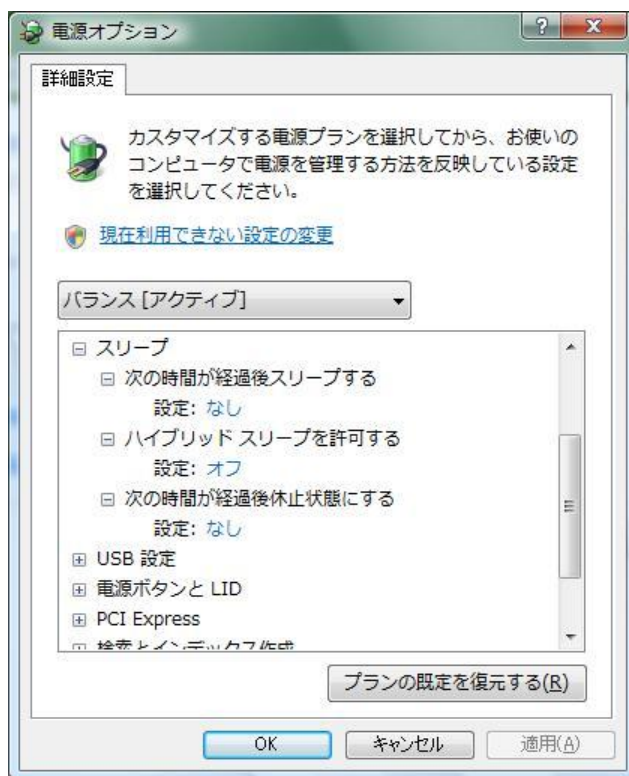
## 1 ドライブシールド SS とスマートコントロールの共存について

ドライブシールド SS と スマートコントロールを同一 PC にインストールすることはできません。

## 2 電源オプションについて

ドライブシールド SS をご利用する際には、Windows の電源オプションにて、各モードを無効にしてください。

Windows8, Windows7, Vista: スリープモード、ハイブリッドスリープモード、休止状態  
XP : スタンバイ、休止状態



### 3 ライセンス認証について

ライセンスの認証方法は以下の3通りがあります。それぞれの条件により、インストール手順が変わりますのでご注意ください。

#### 3.1 クライアントからインターネット経由でライセンスを認証(単独認証)

インストール時にライセンスを認証します。

インターネットがご利用可能でも、プロキシ環境をご利用の場合は、3-3 インターネット環境が無い場合や、Proxy環境での認証(手動認証)にてインストールを行ってください。

#### 3.2 スマートコントロールからのライセンスを認証(一括認証)

ドライブシールドSSは、クライアントから認証を取得しません。認証を取得したスマートコントロールと接続することにより、ライセンス認証を行います。スマートコントロールをインストール後にクライアントPCにドライブシールドSSをインストールしてください。

#### 3.3 インターネット環境が無い場合や、Proxy環境での認証(手動認証)

インストール後に、必ず手動認証手続きを行ってください。

インストール後に作業が必要となります。

### 4 スマートコントロールとの接続条件に関して

ドライブシールドSSは、スマートコントロールからの一括認証の場合、常にスマートコントロールとの接続を行った状態をご利用ください。

ドライブシールドSSとスマートコントロールが未接続の状態ですと、270日経過すると、ドライブシールドSSは起動して1時間後にライセンス認証が解除され、自動的に再起動を行いプロテクト解除モードで起動します。

ライセンス認証が解除された場合、再びスマートコントロールと接続しない限りプロテクトモードにすることができません。

ただし、270日以上通信を行わなかった場合でも、起動後、ドライブシールドSSが1時間以内にスマートコントロールと通信を行えば認証が外れることはございません。

必ず、スマートコントロールを先に起動してから、ドライブシールドSSを起動し、接続を行うようにしてください。

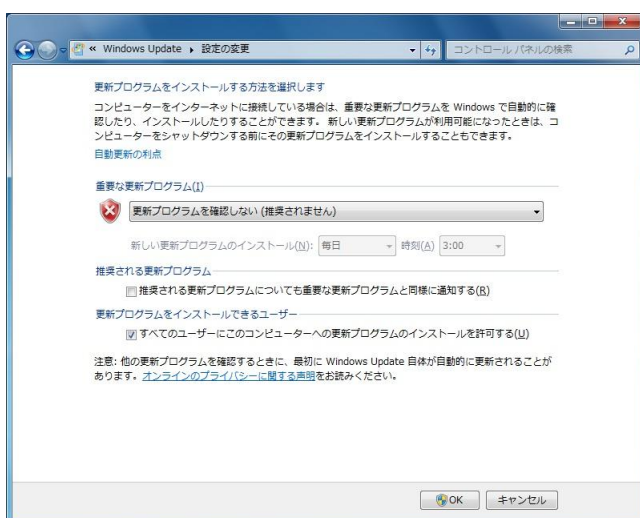
ドライブシールドSSを単独認証にてご利用の場合は、上記に該当しません。継続してのご利用が可能です。

## 5 ドライブシールド SS のアンインストールについて

ドライブシールド SS は、OS の種類によってアンインストール方法が異なります。アンインストールを行う際は、必ず本マニュアルの手順に従ってアンインストールを行ってください。

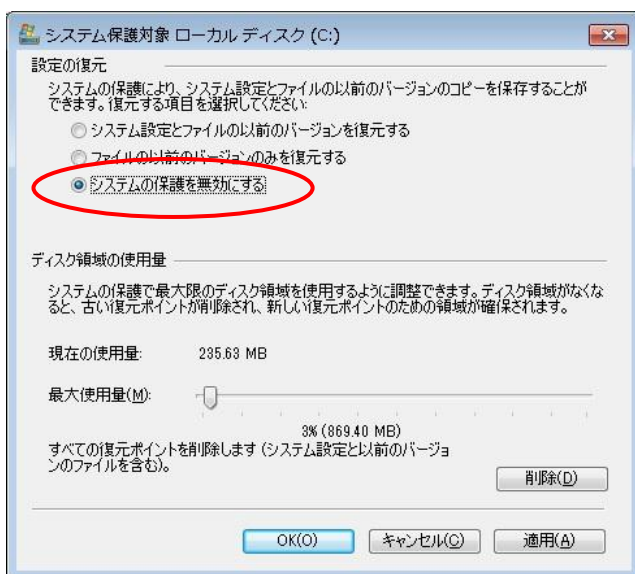
## 6 Windows Update 連携機能に関して

本機能を使用する場合は、Windows OS の Windows Update を無効に設定変更してください。



## 7 システムの復元機能に関して

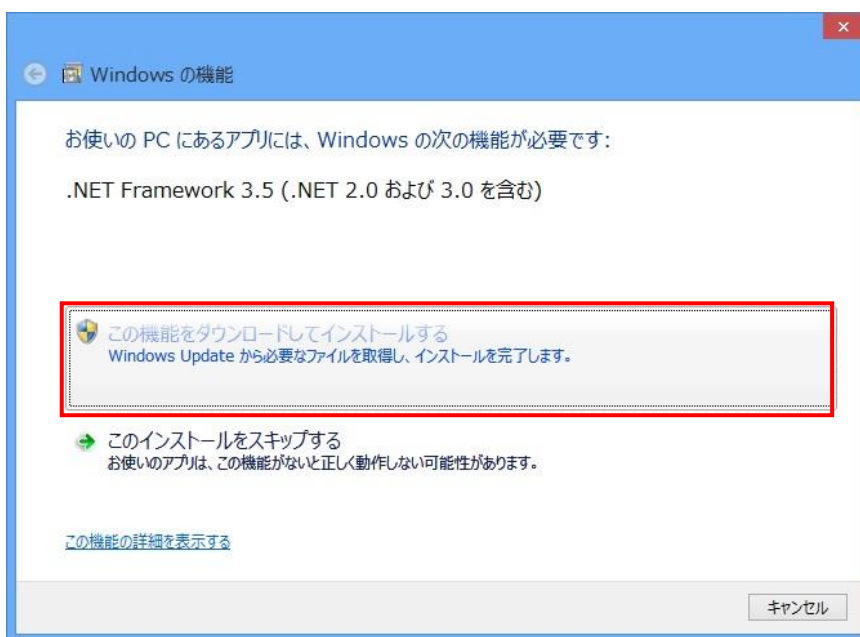
Windows OS のシステムの復元機能は無効にしてください。



## 8 Windows 8 へのインストールについて

ドライブシールド SS をインストールする際は、事前に「.NET Framework 3.5」をインストールする必要があります。Windows 8 の初期状態では、.NET Framework 3.5 は無効になっています。

ドライブシールド SS のインストーラを実行すると、以下のウィンドウが表示されます。



お使いの PC がオンライン接続されていることを確認し、「この機能をダウンロードしてインストールする」をクリックし、画面に従って .NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む) をインストールしてください。

ご利用の環境がオフライン環境の場合は、Windows 8 のインストールメディアを使用して .NET Framework 3.5 のインストールが可能です。

1. Windows 8 のインストールメディアを挿入します。
2. コマンドプロンプトを管理者で実行し、以下を入力します。

```
Dism /online /enable-feature /featurename:NetFx3 /All  
/Source:x:¥sources¥sxs /LimitAccess
```

※ x:¥sources¥sxs はインストールメディアの場所を指定します。

3. 再起動後、.NET Framework 3.5 が有効になります。



# 始めに

## 1 ドライブシールド SS とは

ドライブシールド SS は、コンピュータのハードディスクをプロテクトするためのツールです。

## 2 動作条件

対応 OS	Windows8/8.1(32bit/64bit)、Windows7(32bit/64bit)、Vista(32bit/64bit)
ネットワーク	TCP/IP
必要スペック	メモリ 512MB 以上 HDD 5GB 以上の空き容量 .NET Framework 3.5(.NET 2.0 および 3.0 を含む)
その他	インターネットを経由したライセンスの登録や追加の際に、インターネットに接続されていて、SSL プロトコルが利用可能である必要があります。 プロキシ環境をご利用の場合は、手動認証による手順を実施してください。

### 3 主な機能一覧

#### [プロテクトモード]

ハードディスクをプロテクトする機能です。プロテクトモードで起動すると、コンピュータを起動してからの作業内容は次回の再起動後に全てリセットされ、予め設定した初期の状態に戻ります。プロテクト解除モードで起動すると、全ての作業内容は保存され、通常のコンピュータと同様の状態で使用できます。

また、プロテクトモード時にハードディスクの追加パーティションをプロテクト対象から除外する設定も可能です。

注: OS を起動するパーティション (通常 C ドライブ) はプロテクトモードでは必ずプロテクトになります。

#### [仮想ドライブの設定]

パーティション (ドライブ) が一つしかないコンピュータでも、この機能によりプロテクトモードでも保存可能なドライブの作成が可能になります。なお、仮想ドライブは、マイコンピュータ内に、ハードディスクのアイコンとして表示されます。

注: 仮想ドライブに保存されたデータは、OS やドライブシールドに障害あった場合に取り出せなくなります。重要なデータはサーバや外部記憶装置などにバックアップを取得するようにしてください。

#### [USB ブロッキング]

USB 接続の機器の使用を禁止することができます。

#### [キーボードとマウスのロック]

スマートコントロールから、ドライブシールド SS がインストールされたクライアントのキーボードとマウスの操作をロック (無効) にすることができます。

#### [ステルスモード]

ステルスモードでは、ドライブシールド SS のアイコンは表示されません。これは、学校の PC 教室やインターネットカフェ等のような不特定多数のユーザが使用するコンピュータにおすすめのモードです。(デフォルトの状態ではステルスモードがオフになっています)

注: ステルスモード有効時はプロテクト解除モードでもアイコンは表示されません。

### [Windows Update 連携機能]

Windows Update 連携機能を使用する事で、指定した時間に Windows Update を実施できます。アップデート中はキーボード・マウスがロックされ PC を操作することができないようになります。

### [Optional Directory Protection (ODP)]

ODP を使用することで、ドライブ内にあるフォルダをプロテクト対象から除外することが可能になります。これにより、プロテクト状態のドライブでも、指定したフォルダ内のファイルの更新維持が可能になります。

\* C:¥Windows¥、または C:¥Program Files¥ にあるフォルダを指定することはできません。

\* レジストリを除外することはできません。

## 4 スマートコントロールについて

スマートコントロールは、ドライブシールド SS をリモートでコントロールするための管理用ソフトウェアです。

スマートコントロールの詳細については、「スマートコントロール インストール／操作ガイド」をご参照ください。

## 5 試用版について

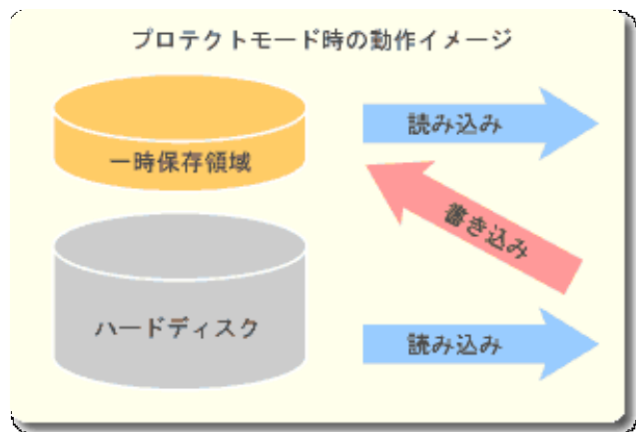
試用版をご利用いただくには試用版コードが必要です。巻末のサポート窓口までお問い合わせください。

# プロテクトモードの基本概念

ドライブシールド SS は、コンピュータのハードディスクへの変更操作をプロテクトするためのセキュリティツールです。

例えば、ファイルの新規作成や変更、削除等の操作を始め、パーティションのフォーマットや削除、レジストリやシステムフォルダへの変更操作を行っても、コンピュータを再起動するだけでそれらの操作は無効になり元の状態に戻ります。

ドライブシールド SS をインストールしたコンピュータをプロテクトモードで起動すると、ハードディスクへの書き込みや削除、設定変更等の操作は一切禁止されます。しかし、これらの操作情報は一時保存領域に蓄積されていくため、一見通常と変わらないコンピュータの操作が可能です。



コンピュータの電源を再スタートする

と、一時保存領域に蓄積されたデータはリセットされ、初期状態の環境が復元されます。

プロテクト機能は、お客様が設定したパスワードにより解除が可能です。プロテクトを解除した状態では、通常のコンピュータと同様に、書き込みや削除、設定変更が可能です。

# インストール方法

## 1 ドライブシールド SS のインストール方法

- (1) 管理者権限でログオンし、インストール CD 中の SmartShield.exe というアイコンをダブルクリックしてください(ダウンロードした場合は上記のファイルをダブルクリックしてください)



- (2) [Next] をクリックしてください。



- (3) 画面の内容をよくお読みの上、同意していただいた場合は、[I accept the terms of the license agreement] にチェックを入れ、[Next] をクリックしてください。



- (4) ライセンスの認証方法は、以下の 3 通りから選択します。認証方法の詳細につきましては、P2 の 3 ライセンス認証について をご参照ください。



[Select to Register with Smart Control Managed Licensing]

→スマートコントロールからライセンスを認証(一括認証)

[Select to Register with Internet Connection]

→クライアントからインターネット経由でライセンスを認証(単独認証)

[Select to Register Manually]

→インターネット環境が無い場合や、Proxy 環境での認証(手動認証)

(5)-A クライアントからインターネット経由でライセンスを認証(単独認証)

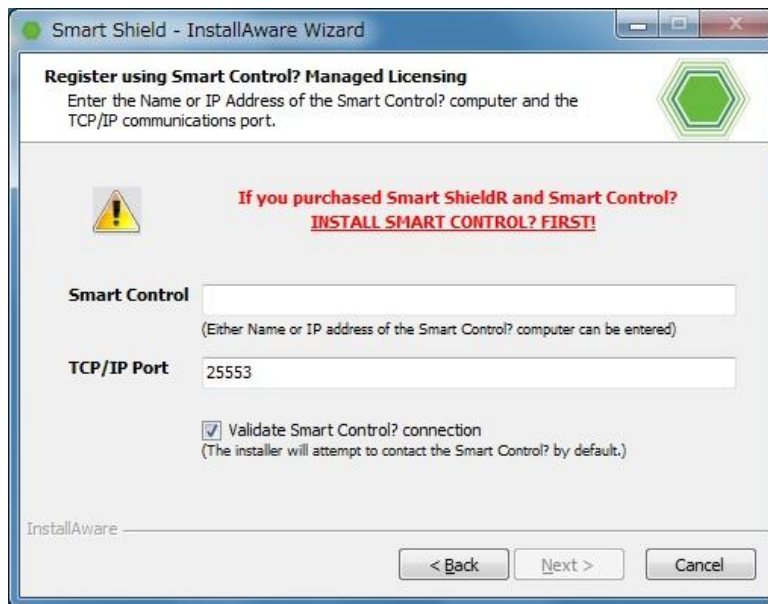
1. [Select to Register with Internet Connection] を選択します。その後、[Next] をクリックします。
2. 次に、ライセンスキーを入力します。入力後 [Next] をクリックします。



\* ライセンスは、PC1 台につき1つとなります。1 度認証を行ったライセンスキーは、その PC 固有のライセンスキーとなります。複数の PC へ認証作業を行う際にはご注意ください。

(5)-B スマートコントロールからライセンスを認証(一括認証)

1. [Select to Register with Smart Control Managed Licensing] を選択します。その後、[Next] をクリックします。
2. スマートコントロールがインストールされている PC の IP アドレスまたは、PC 名を入力します。Port のデフォルトは [25553] です。入力後 [Next] をクリックします。





- (5) -C インターネット環境が無い場合や、Proxy 環境での認証(手動認証)
1. [Select to Register Manually] を選択します。その後、[Next] をクリックします。
  2. 次に、ライセンスキーを入力します。入力後 [Next] をクリックします。



\* インストール後の再起動で、認証作業が必要となります。21 ページの手動認証によるインストール後の認証作業 を実施してください。

- (6) パスワードの設定画面が表示されますので、ここで、プロテクトを解除するためのパスワードを入力してください。なお、パスワードは6文字以上の半角英数字を入力してください。入力が終わったら [Next] をクリックしてください。

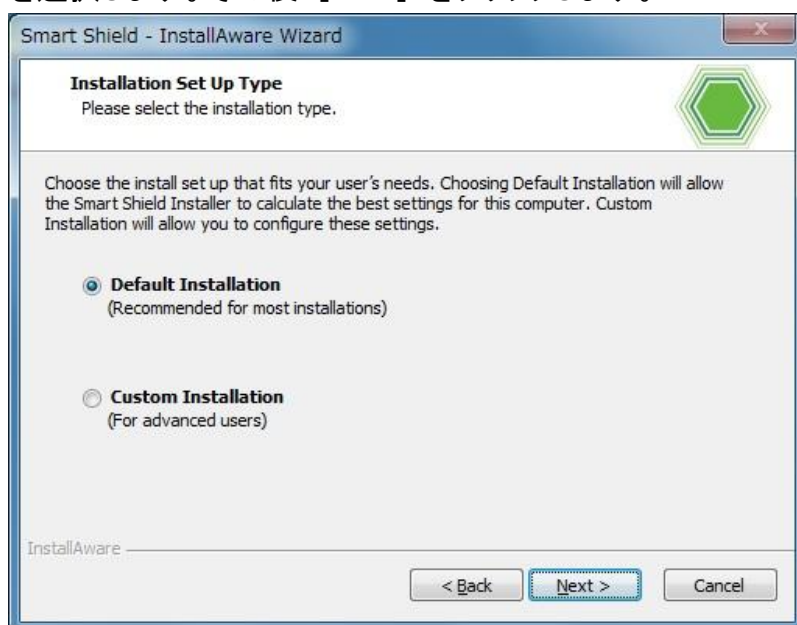


(7) Keyboard Mouse ロック解除キー設定画面が表示されますので、ここで、キー入力します。なお、キーは 6 文字以上の半角英数字を入力してください。入力が終わったら[Next] をクリックしてください。

\* Keyboard Mouse ロックの機能は、スマートコントロールからキーボードとマウスのロックを行った場合の、解除キーになります。



(8) デフォルト設定のままインストールを行うか、設定を変更しインストールを行うかを選択します。デフォルト設定でインストールする場合、[Default Installation] を選択します。設定を変更しインストールを行う場合は、[Custom Installation] を選択します。その後 [Next] をクリックします。



(9) -A デフォルト設定でインストールする場合

設定確認の画面が表示されます。(Hot Key と Keyboard Mouse ロック解除キー以外の設定はインストール後に変更が可能です) 確認後、[Next] をクリックしてください。



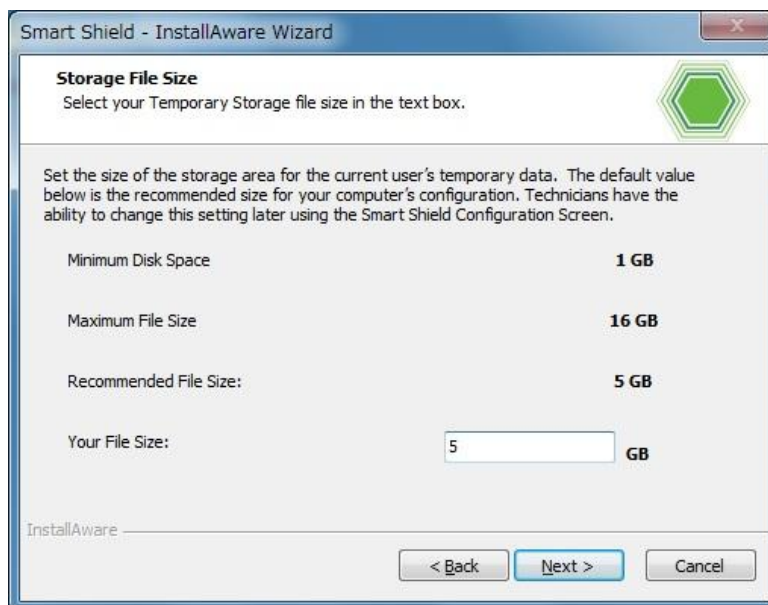
(9) -B 設定を変更しインストールを行う場合

1. ステルスモードの有効時にアイコンを表示させるためのホットキーの設定を行います。(例:Ctrl + Shift + Tab)

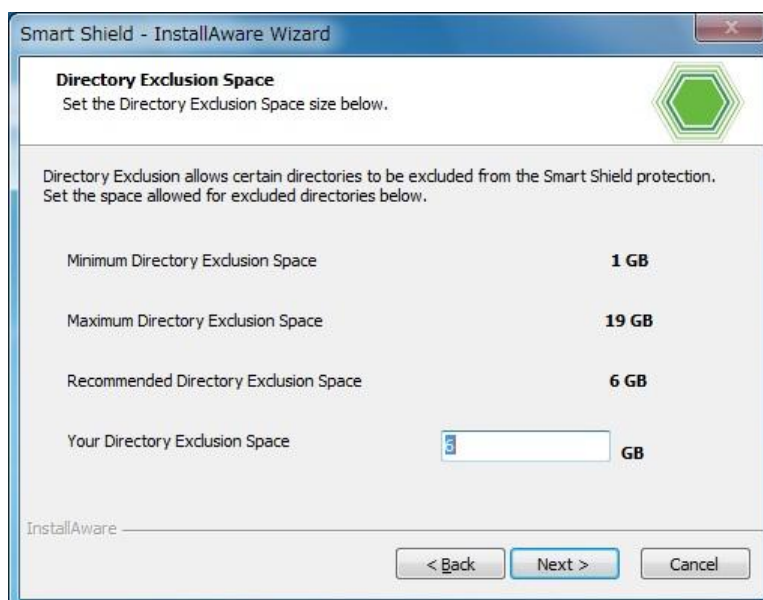


\* そのコンピュータにおいて、既に予約されているキーの組み合わせは、選択できません。組み合わせを変えてお試しください。

2. 一時保存領域の大きさを設定します。最小サイズと最大サイズが表示されているので、その間のサイズを任意で指定してください。



3. こちらは、使用しない機能の設定となります。そのまま「Next」をクリックしてください。  
\* 表示されるファイルサイズの容量は使用しません。



4. デフォルトでは OS がインストールされたドライブ (通常は C ドライブ) のみプロ

テクトの対象となります。すべてのドライブとパーティションをプロテクト対象にしたい場合は、[Protect all drives and partitions]を選択します。



5. 仮想ドライブ作成を行う場合は、[Create Persistent Storage] にチェックを入れ、[Next] をクリックしてください。仮想ドライブの設定画面になります。



6. 仮想ドライブの設定画面では、仮想ドライブのサイズとドライブ名を設定します。最小サイズと最大サイズが表示されているので、その間のサイズを任意で指定してください。



7. USB デバイスブロックの設定をします。任意の種類 of USB デバイスを選択してください。設定後 [Next] をクリックします。  
\* USB メモリは、Mass Storage に該当します。



8. インストールオプションを選択します。任意のオプションを選択してください。



[Stealth Install]

スタート及び、プログラムメニューにドライブシールド SS のアイコン等を表示しない場合に有効にします。

[Create Answer File]

Cドライブの直下に、アンサーファイル(answer.cen)を作成します。

(認証方法が”一括認証”の場合にのみ有効にできます。)

\* アンサーファイルは、自動インストール用の応答ファイルです。

アンサーファイル作成時の設定内容にて、他のパソコンへドライブシールド SS を自動インストールすることができます。

【自動インストールの詳細】

ユーザによる入力を必要としないインストール方法です。複数のパソコンでインストールを実行する際に便利な方法です。

インストール後に作成された answer.cen と SmartShield.exe を同一のフォルダ上に置き、SmartShield.exe を実行することで自動インストールを行います。

[Install Antivirus Client]

こちらは、使用しない機能の設定となります。チェックを入れず、そのまま「Next」をクリックしてください。

- (10) インストール確認画面が表示されます。[Next] をクリックします。その後、再起動を行うとインストールが完了します。



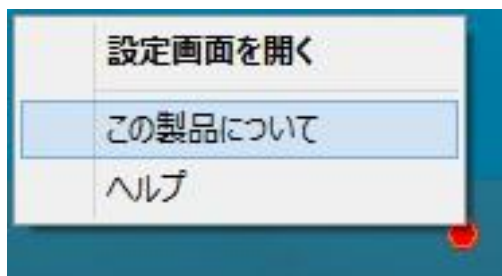
## 2 スマートコントロール側のインストールと設定方法

スマートコントロールのインストール、設定方法については、製品付属の「インストール／操作ガイド」をご参照ください。



### 3 手動認証によるインストール後の認証作業

(1) タスクトレイの赤色のアイコンを右クリックし、「この製品について」を選択します。



(2) [認証] をクリックします。



(3) [手動認証]タブを選択し、[作成] をクリックします。ファイルを保存する場所を指定します。保存先に ctiregOUT.cen というファイルが作成されます。

\* ctiregOUT.cen のファイル名は変更しないでください。



(4) 次に[ブラウザを開く] をクリックします。手動認証専用のウェブページへアクセスします。インターネットが使用できない環境の場合は、インターネットが使用できる端末から下記 URL へアクセスしてください。

<http://registration.centuriontech.com>



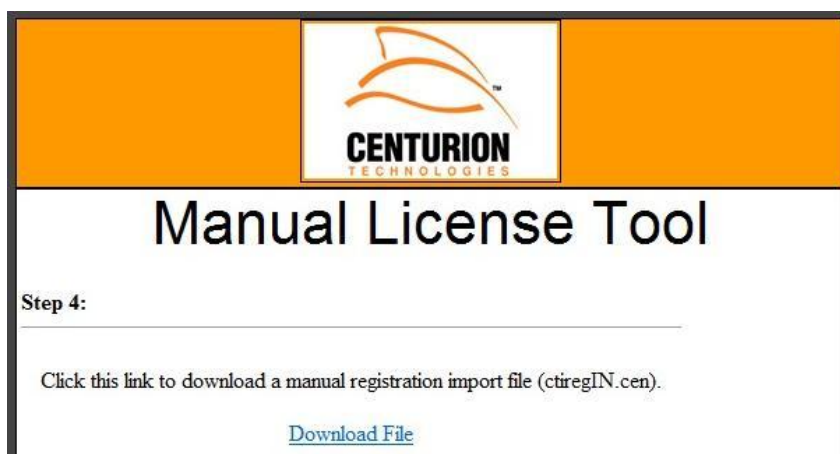
- (5) [参照] をクリックし、(3)にて作成した ctiregOUT.cen ファイルを選択します。その後、[Upload] をクリックします。画面内に File to be processed: ctiregOUT.cen と表示されます。



The screenshot shows the 'Manual License Tool' interface. At the top is the Centurion Technologies logo. Below the title, 'Step 1:' is followed by a horizontal line. The instruction 'Select your manual license file (ctiregOUT.cen).' is displayed. A text input field contains 'G:\ctiregOUT.cen' and a button labeled '参照...' is to its right. Below this, 'Step 2:' is followed by another horizontal line. The instruction 'Click the button below to upload you file to our license server.' is shown, with an 'Upload' button centered below it.

- (6) [Process File] をクリックします。画面内に表示された Download File をクリックし、ctiregIN.cen というファイルをダウンロードします。ファイルを任意の場所に保存してください。

**\* ctiregIN.cen のファイル名は変更しないでください。**



The screenshot shows the 'Manual License Tool' interface. At the top is the Centurion Technologies logo. Below the title, 'Step 4:' is followed by a horizontal line. The instruction 'Click this link to download a manual registration import file (ctiregIN.cen).' is displayed. A blue underlined link labeled 'Download File' is centered below the instruction.

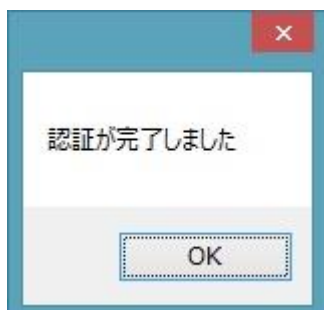
\* Internet Explorer 10 以降をご使用の場合、ファイルのダウンロードができない場合があります。この場合は、認証ページのトップページにて、アドレスバーの右にある互換表示ボタンをクリックして、互換性表示を有効にしてからファイルのアップロード、ダウンロードを実施してください。



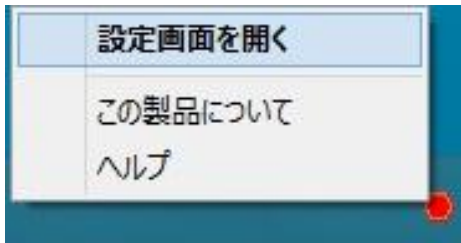
(7) (1)からの手順を実施し、以下の画面にて、[ファイルの読み込み] をクリックします。ダウンロードした ctiregIN.cen を選択してください。



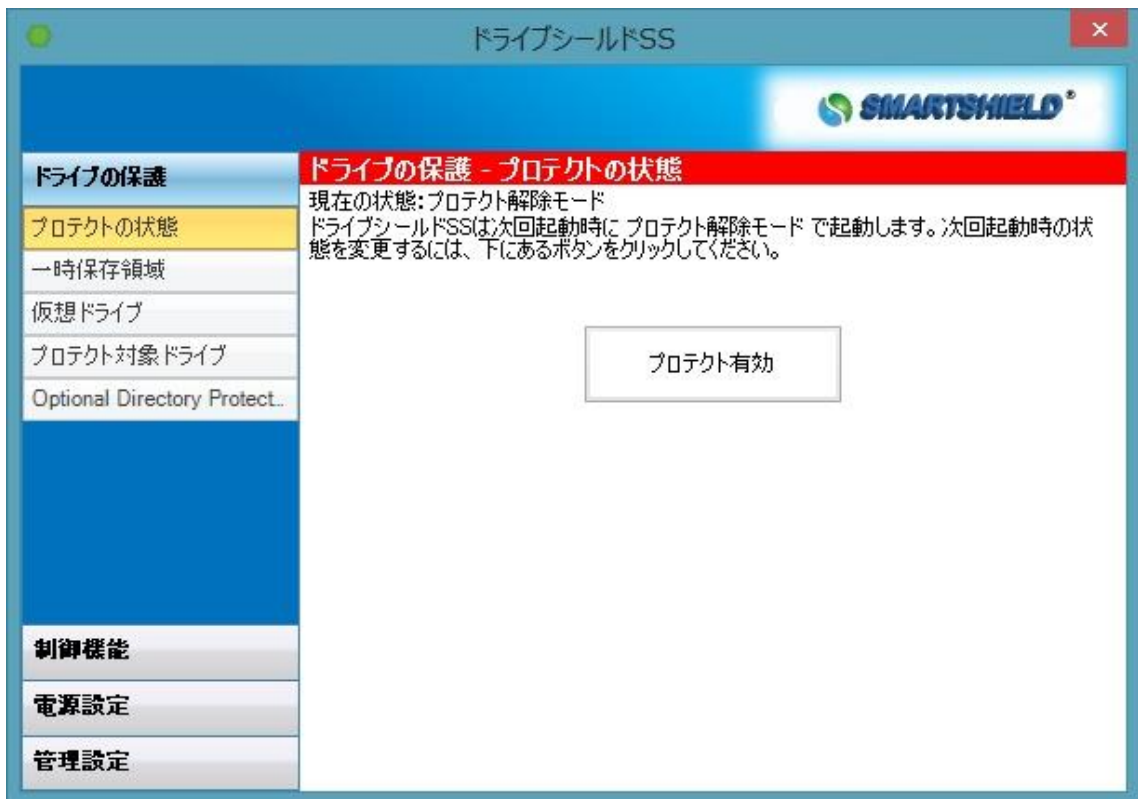
(8) 認証が成功すると、以下の画面が表示されます。PC を再起動してください。



- (9) 再起動後、タスクトレイの赤色のアイコンを右クリックし「設定画面を開く」を選択します。



- (10) 設定画面が表示されます。画面左側のボタンが以下のように構成されているかをご確認ください。



以上で、手動認証は完了です。

# アイコンの説明

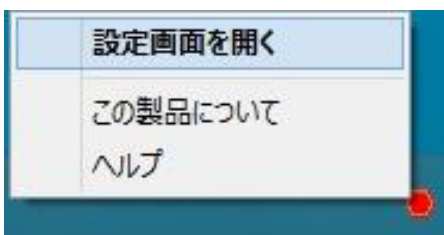
プロテクト解除モード時は、タスクトレイに赤いアイコンが表示されます。



プロテクトモード時は、タスクトレイに緑のアイコンが表示されます。



アイコンを右クリックし、[設定画面を開く] を選択します。  
メニュー画面が表示されます。



\* Windows8 または Windows7 の場合、アイコンがタスクトレイに表示されない場合があります。アイコンボックス内に表示されますので、タスクトレイに表示したい場合は、**通知領域のカスタマイズ**を行ってください。



# 各機能の操作方法

## 1 ドライブの保護

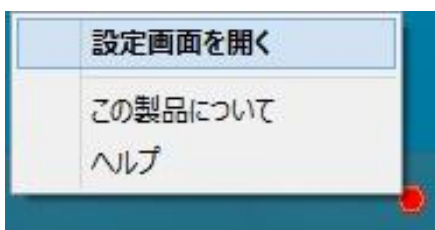
プロテクトモードの変更や、一時保存領域の変更など、ドライブに関する設定変更を行います。

### 1.1 プロテクトの状態

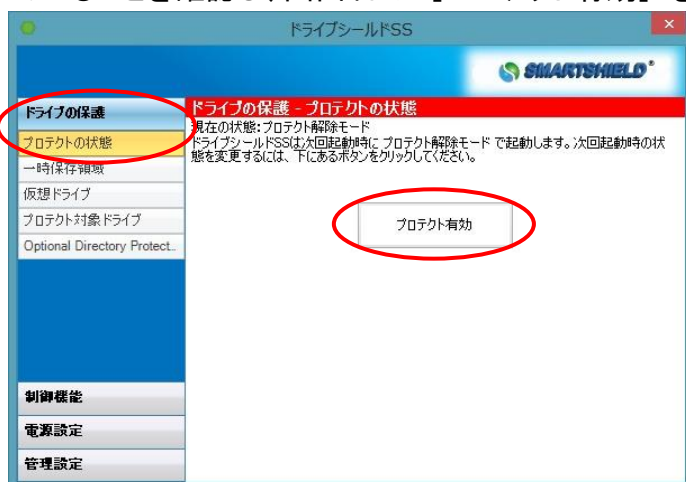
プロテクトモードでコンピュータを起動すると、ハードディスクに変更を加えても、再起動後には、いままでの操作内容は全てリセットされ、元の状態に戻ります。

#### 1.1.1 プロテクトモードにする方法

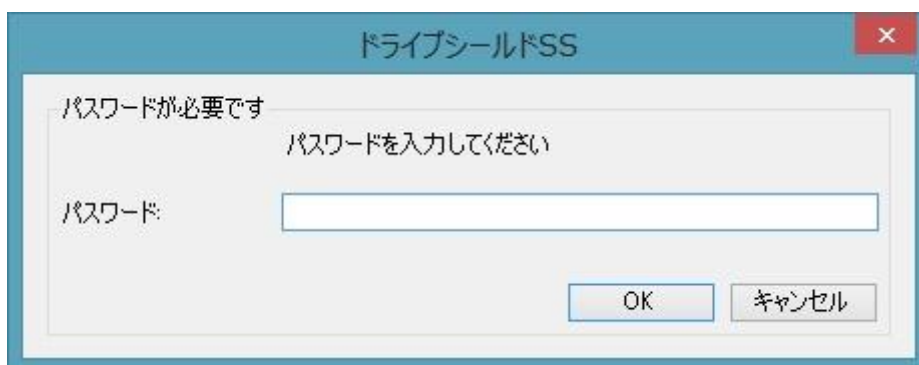
- (1) タスクトレイの赤色のアイコンを右クリックし、[設定画面を開く] を選択するか、赤色のアイコンをダブルクリックしてください。



- (2) 次の設定画面が表示されますので、画面左の [プロテクトの状態] が選択されていることを確認し、画面右の [プロテクト有効] をクリックしてください。

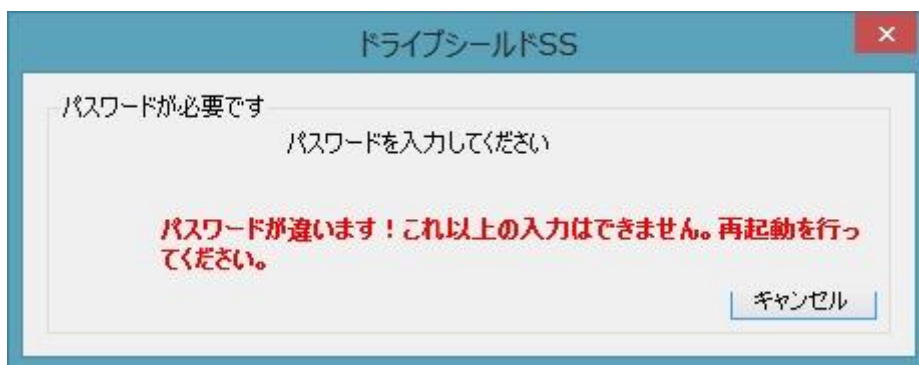


- (3) 次のパスワードダイアログが表示されますので、インストール時に設定したパスワードを入力し、[OK] をクリックしてください。

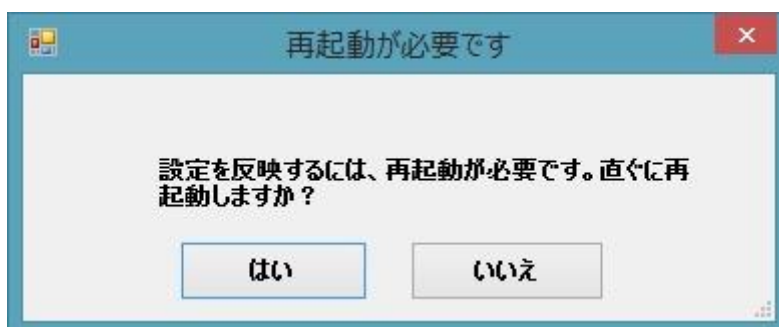


パスワード入力に関する注意:

パスワード入力を 2 回間違えると、以下のメッセージが表示されます。再起動を行ってください。



- (4) 次のダイアログが表示されます。ダイアログの内容に従って再起動してください。





### 1.1.2 プロテクト解除モードにする方法

- (1) タスクトレイの緑色のアイコンを右クリックし、[設定画面を開く] を選択するか、緑色のアイコンをダブルクリックしてください。
- (2) 設定画面が表示されますので、画面左の [プロテクトの状態] が選択されていることを確認し、画面右の [プロテクト解除] をクリックしてください。
- (3) パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し、[OK] をクリックしてください。

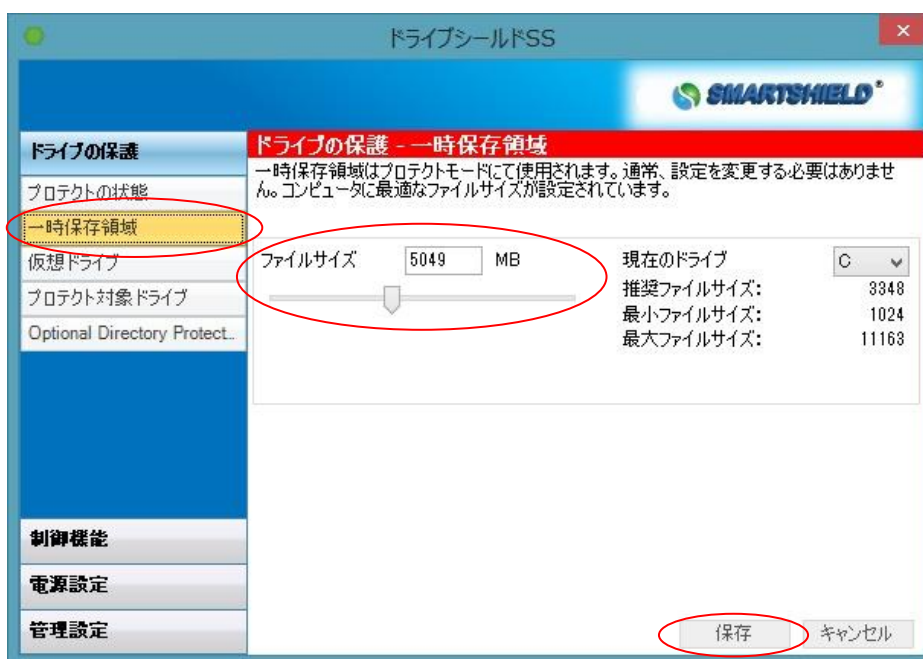
## 1.2 一時保存領域

プロテクトモード中に非常に大きなサイズのファイルを扱う場合等に、一時保存領域がすぐに消費され、書き込み禁止を示す警告メッセージが表示される場合があります。また、一時保存領域を最大容量に作成していると、追加のソフトウェアをインストールするためのディスクの空き容量が足りなくなる場合があります。

以上のような場合は、次の手順で一時保存領域のサイズ変更を行ってください。

### 1.2.1 一時保存領域のサイズ変更方法

(1) 設定画面左の [ドライブの保護] [一時保存領域] をクリックします。



(2) [ファイルサイズ] の欄に、数字を直接入力するか、スライダーでファイルサイズの変更を行い、右下の [保存] をクリックしてください。

(3) 次のダイアログが表示されますので、メッセージに従い再起動してください。



### 1.3 仮想ドライブ

仮想ドライブは、プロテクトの対象にならない仮想のドライブを作成する機能です。これにより、プロテクトモードでもデータの保存が可能になります。

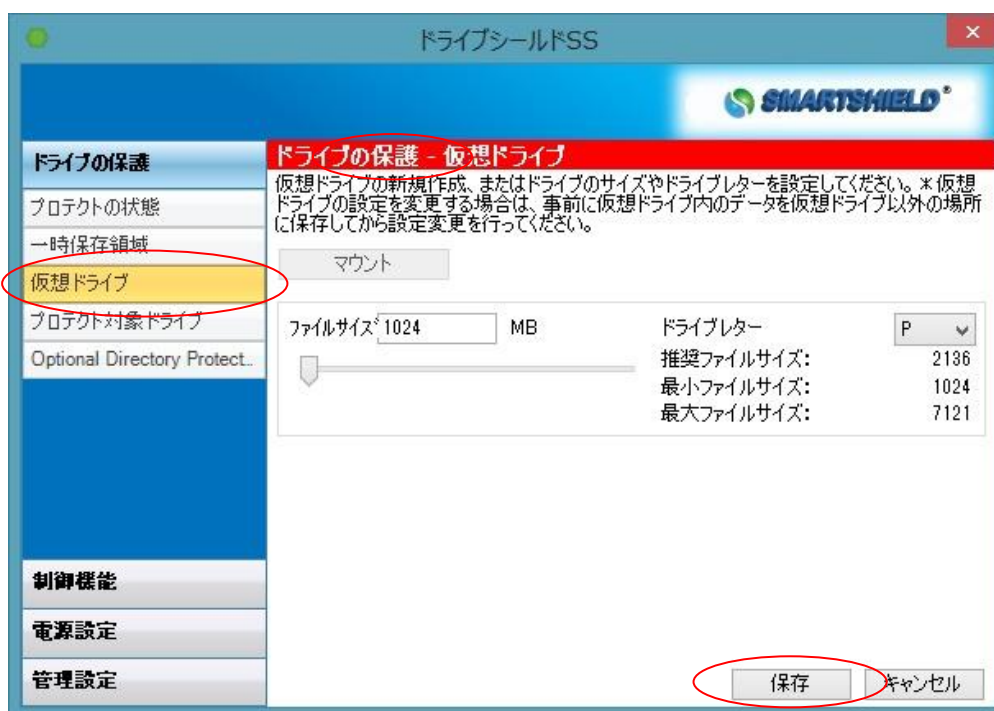
仮想ドライブを作成すると、マイコンピュータ上にハードディスクのアイコンとして表示されます。

ドライブシールド SS のインストール時に、仮想ドライブの設定を行わなかった場合、仮想ドライブは作成されませんが、設定画面からも仮想ドライブを作成できます。

注: 仮想ドライブに保存されたデータは、OS やドライブシールドに障害あった場合に取り出せなくなります。重要なデータはサーバや外部記憶装置などにバックアップを取得するようにしてください。

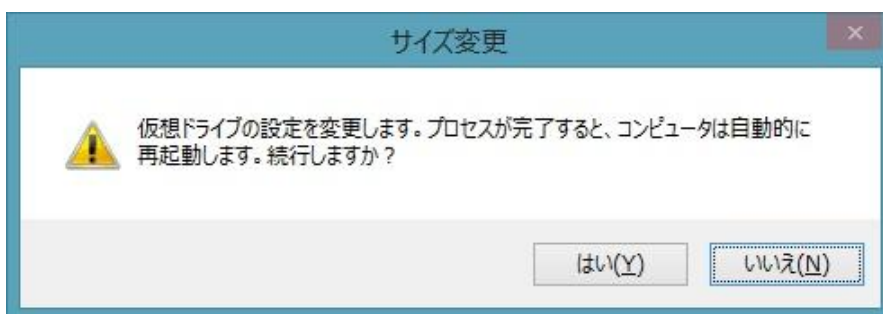
#### 1.3.1 仮想ドライブの作成

(1) 設定画面左の [ドライブの保護] [仮想ドライブ] をクリックします。

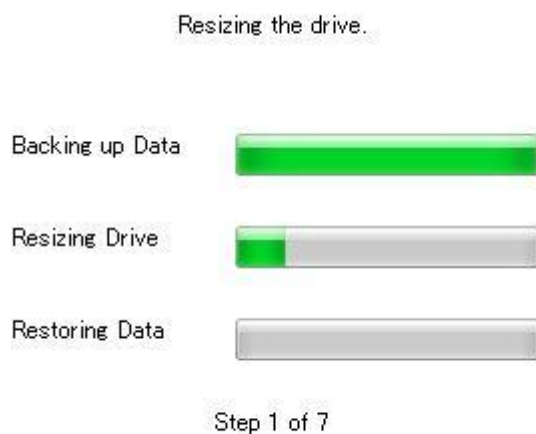


(2) [ファイルサイズ] の欄に、数字を直接入力するか、スライドバーでファイルサイズを変更し、[保存] をクリックしてください。

- (3) パスワードを入力後、次のダイアログが表示されますので、OK をクリックしてください。



- (4) 次の画面が表示されます。その後再起動します。



### 1.3.2 仮想ドライブのマウント解除／マウント

仮想ドライブをマウント解除すると、コンピュータから非表示になります。一時的に仮想ドライブを隠したい場合などに便利です。

なお、仮想ドライブをマウント解除しても、その中にあるデータは消えません。再度マウントすれば、マウント解除前に作られたデータも現れます。

\* マウント解除/マウントの変更を行う場合は、設定変更を行う前に、仮想ドライブ内のデータを、仮想ドライブ以外の場所へバックアップを行ってから実行してください。

#### マウント解除

- (1) 設定画面左の [ドライブの保護] [仮想ドライブ] をクリックします。
- (2) [マウント解除] をクリックします。
- (3) ダイアログが表示されます。メッセージに従い再起動してください。
- (4) 再起動後、仮想ドライブが非表示になります。

#### マウント

- (1) 設定画面左の [ドライブの保護] [仮想ドライブ] をクリックします。
- (2) [マウント] をクリックします。
- (3) ダイアログが表示されます。メッセージに従い再起動してください。
- (4) 再起動後、仮想ドライブが再表示されます。

### 1.3.3 仮想ドライブのサイズ変更

- (1) [ファイルサイズ] を変更し、[保存] をクリックしてください。
- (2) ダイアログが表示されますので、メッセージに従い再起動してください。
- (3) 再起動後、仮想ドライブのサイズが変更されます。

\* 仮想ドライブの変更を行う場合は、設定変更を行う前に、仮想ドライブ内のデータを、仮想ドライブ以外の場所へバックアップを行ってから実行してください。

\* マウント解除(アンマウント)時にサイズ変更はできません。

### 1.3.4 ドライブレターの変更

- (1) [ドライブ] から任意のドライブ文字を選択してください。
- (2) [保存] をクリックしてください。
- (3) 再起動します。
- (4) 再起動後、仮想ドライブのドライブ文字が変更されています。

\* ドライブレターの変更を行う場合は、設定変更を行う前に、仮想ドライブ内のデータを、仮想ドライブ以外の場所へバックアップを行ってから実行してください。

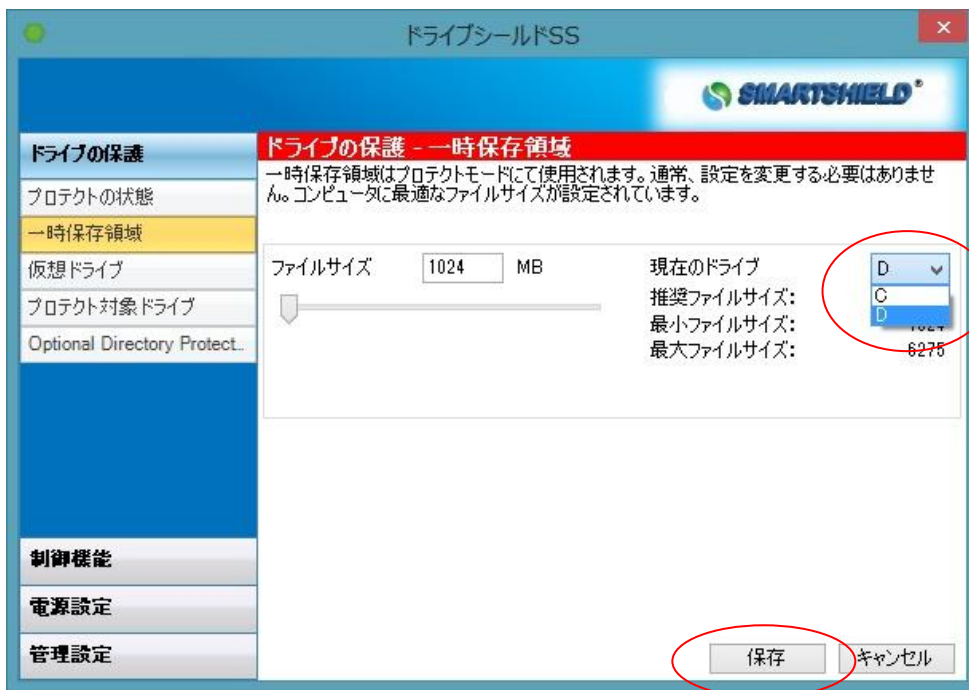
\* マウント解除(アンマウント)時にドライブ文字の変更はできません。

#### 1.4 特定のドライブをプロテクトにする

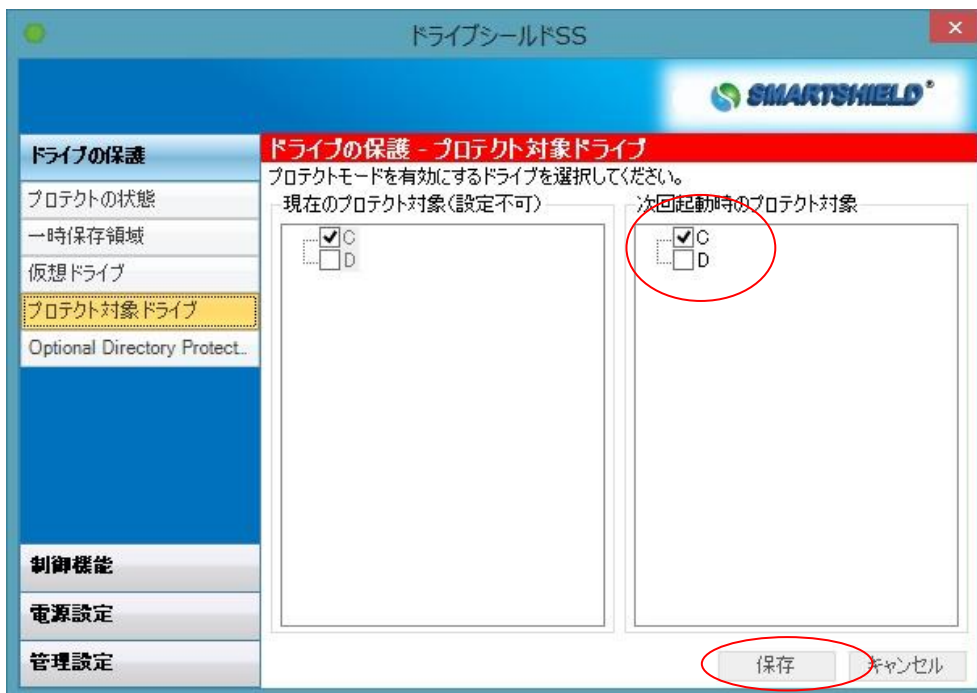
デフォルトでは OS がインストールされたドライブのみプロテクト対象となりますが、特定のドライブをプロテクトの対象にすることが可能です。

なお、現在稼働中の OS がインストールされたドライブ(通常 C ドライブ)はプロテクトの対象から除外することはできません。

- (1) 設定画面左の [ドライブの保護] [一時保存領域] をクリックします。
- (2) [現在のドライブ] からプロテクト対象にしたいパーティションを選択し [ファイルサイズ] の欄に数字を直接入力するか、スライダーで一時保存領域のサイズを指定し、右下の [保存] をクリックします。ダイアログが表示されますので、メッセージに従い再起動してください。



- (3) 一時保存領域作成後、設定画面左の [ドライブの保護] [プロテクト対象ドライブ] をクリックします。プロテクト対象にしたいパーティションにチェックを入れ、[保存] をクリックします。



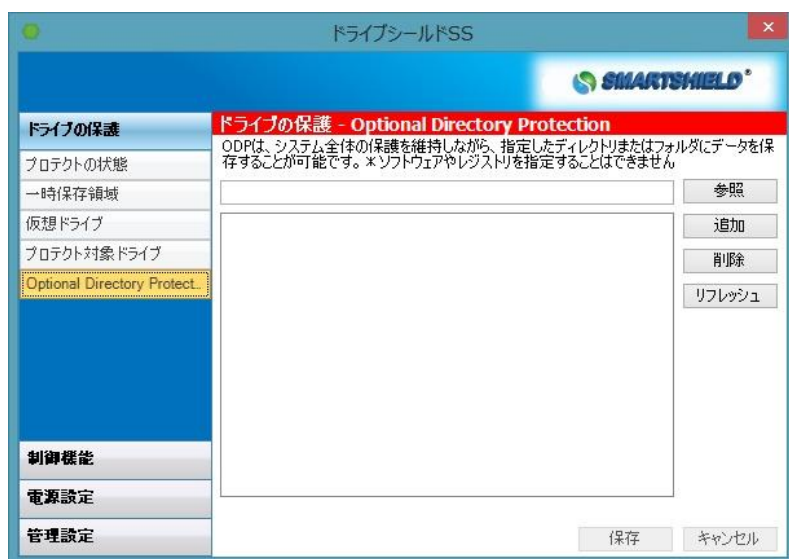


## 1.5 Optional Directory Protection (ODP)

ODP を使用することで、ドライブ内にあるフォルダをプロテクト対象から除外することが可能です。プロテクト状態のドライブでも、指定したフォルダ内のファイルの更新維持が可能になります。

- \* C:¥Windows¥ または C:¥Program Files¥ にあるフォルダを指定することはできません。
- \* レジストリを除外することはできません。
- \* プロテクト有効中は、設定の変更はできません。プロテクト解除状態で設定を行なってください。

- (1) 設定画面左の [ドライブの保護] [Optional Directory Protection] を選択します。
- (2) [参照] をクリックして、対象のフォルダを選択します。



- (3) [追加] をクリックします。指定したフォルダがリストに加えられます。
- (4) [保存] をクリックして、パスワードを入力します。再起動後、設定が適用されます。
- (5) 指定を解除する場合は、解除したいフォルダを選択し、[削除] をクリックします。その後、右下の [保存] をクリックし、パスワードを入力します。再起動後に変更が適用されます。
  - \* フォルダを ODP から解除しても、実際のフォルダは削除されません。

## 2 制御機能

USB デバイスのブロック設定や、Windows Update 連携機能、プログラムの実行制限機能の設定変更を行います。

### 2.1 ロックアウト設定（USB/1394/Firewire ブロック/ステルスモード）

設定画面左の [制御機能][ロックアウト設定] をクリックすると、次の画面が表示されます。



それぞれのメニューのアイコンの色が緑色の場合は、ブロックまたは有効の状態であることを指しています。赤色の場合は、ブロック解除または無効の状態を指しています。

### 2.1.1 USB ブロック

この機能により、USB 接続機器の使用を有効にするか無効にするかの制御を行うことができます。(デフォルトの設定では、USB ブロッキングはオフになっています。)

(1) [拡張設定] をクリックすると次の画面が表示されます。



(2) ブロックの対象にする USB デバイスの種類を選択し、[Ok] をクリックしてください。

(3) [ブロック] または、[ブロック解除] をクリックするとパスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し [Ok] をクリックしてください。

### 2.1.2 1394/Firewire ブロック

この機能により、Firewire 接続機器の使用を不可にすることができます。

(1) [ブロック] または、[ブロック解除] をクリックするとパスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し [Ok] をクリックしてください。

### 2.1.3 ステルスモード

ステルスモードを有効にすると、プロテクトモードの際は、ドライブシールド SS のアイコンは表示されません。これは、学校の PC 教室やインターネットカフェ等のような不特定多数のユーザが使用するコンピュータにおすすめのモードです。

ステルスモードをオフにすると、プロテクト/プロテクト解除モードの時でも、常時ドライブシールド SS のアイコンが表示されるようになります。

(デフォルトの設定では、ステルスモードはオフになっています)

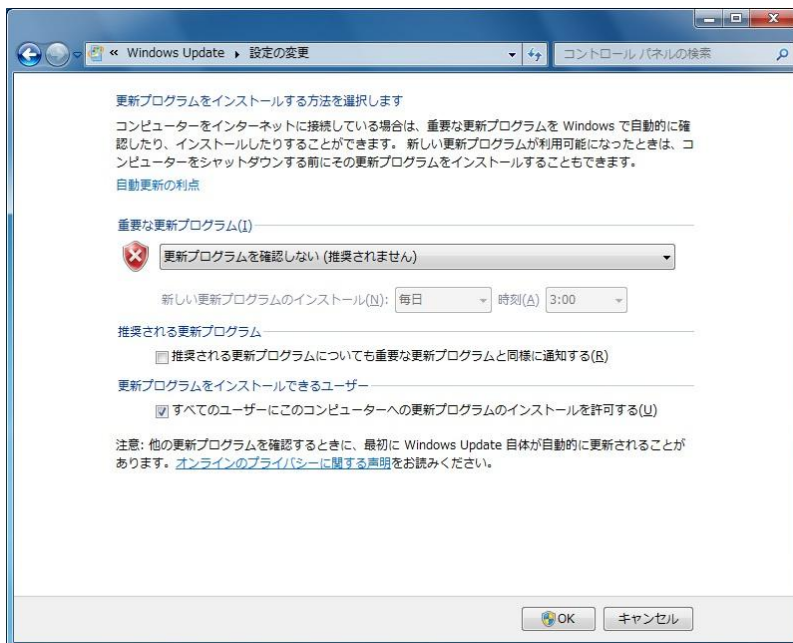
- (1) [有効] または、[無効] をクリックするとパスワード入力画面が表示されます。  
パスワードを入力し [Ok] をクリックしてください。

## 2.2 Windows Update 連携

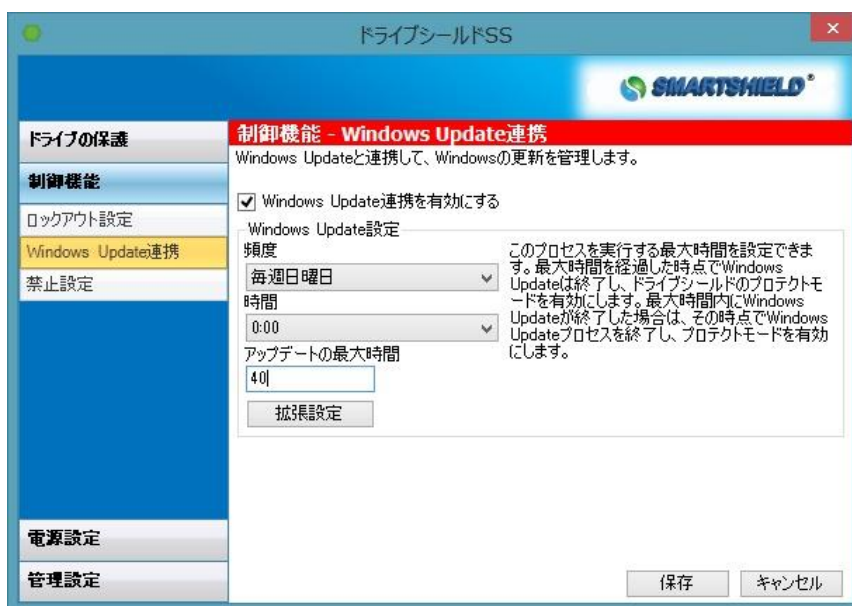
この機能により、指定した時間に Windows Update のスケジュール実行を設定することができます。設定時間になると、自動的にプロテクトが解除され、Windows Update が実施されます。Windows Update が終了すると、自動的にプロテクトモードになります。

Windows Update 中はキーボード・マウスがロックされる為、その他の設定が変更される心配はありません。

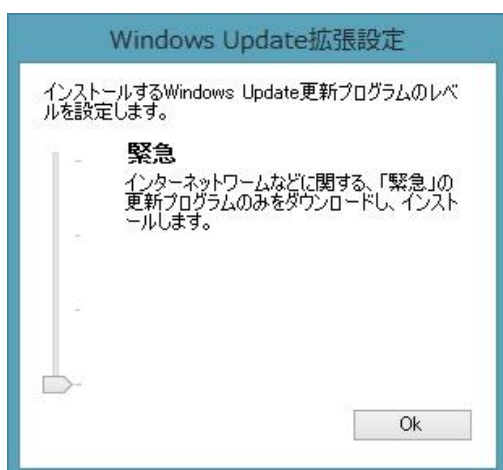
\* 本機能を使用する場合は、Windows OS の Windows Update 機能を無効に設定変更してください。



- (1) 設定画面左の [制御機能][Windows Update 連携] をクリックします。次の画面が表示されます。



- (2) [Windows Update 機能を有効にする] にチェックを入れます。
- (3) [頻度] よりアップデートを実施する頻度を設定し、[時間] からアップデート実施時間を設定します。
- (4) [拡張設定] をクリックし Windows Update の更新タイプをスライダーから選択します。



[すべて]

利用可能な更新プログラムを全てダウンロードし、インストールします。

[推奨]

深刻度「警告」「重要」「緊急」の修正プログラムをダウンロードし、インストールします。

[重要]

深刻度「重要」「緊急」の修正プログラムをダウンロードし、インストールします。

[緊急]

インターネットワームなどに関する、「緊急」の更新プログラムのみをダウンロードし、インストールします。

- (5) 「アップデートの最大時間」の欄にアップデートにかかる最大時間を設定します。こちらで設定した時間を過ぎた場合、または更新プログラムが見つからない場合は、Windows Update がその時点で終了し、プロテクト状態へ移行します。最小の設定は 40 分です。
- (6) [OK] をクリックしてください。

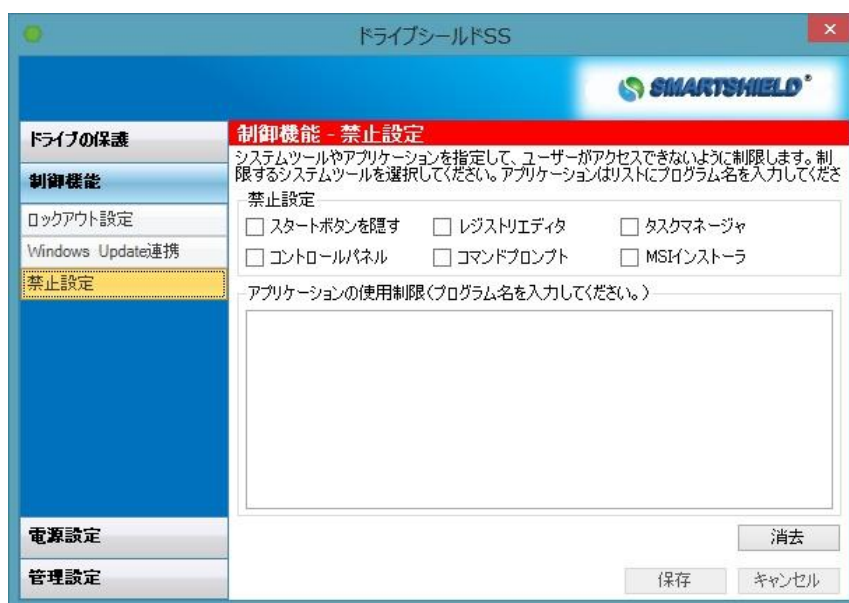
## 2.3 アプリケーションの禁止設定

PC のシステムツールや、指定したアプリケーションをユーザが使用できない様に、アクセス制限を設定することが可能です。

(1) アクセス制限を設定する項目にチェックを入れてください。以下の機能が選択可能です。

- ・コマンドプロンプト
- ・スタートボタン（タスクバーの非表示）
- ・コントロールパネル
- ・タスクマネージャー
- ・レジストリエディタ
- ・.msi インストーラの起動

アプリケーションを指定する場合は、テキストボックスにプログラム名を入力してください。例：explorer.exe



(2) [OK] をクリックします。パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し [OK] をクリックしてください。再起動後、設定が反映されます。

制限を解除する場合は、[消去] をクリックしたあと、[OK] をクリックしてください。パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し [OK] をクリックしてください。再起動後、制限が解除されます。



### 3 電源設定

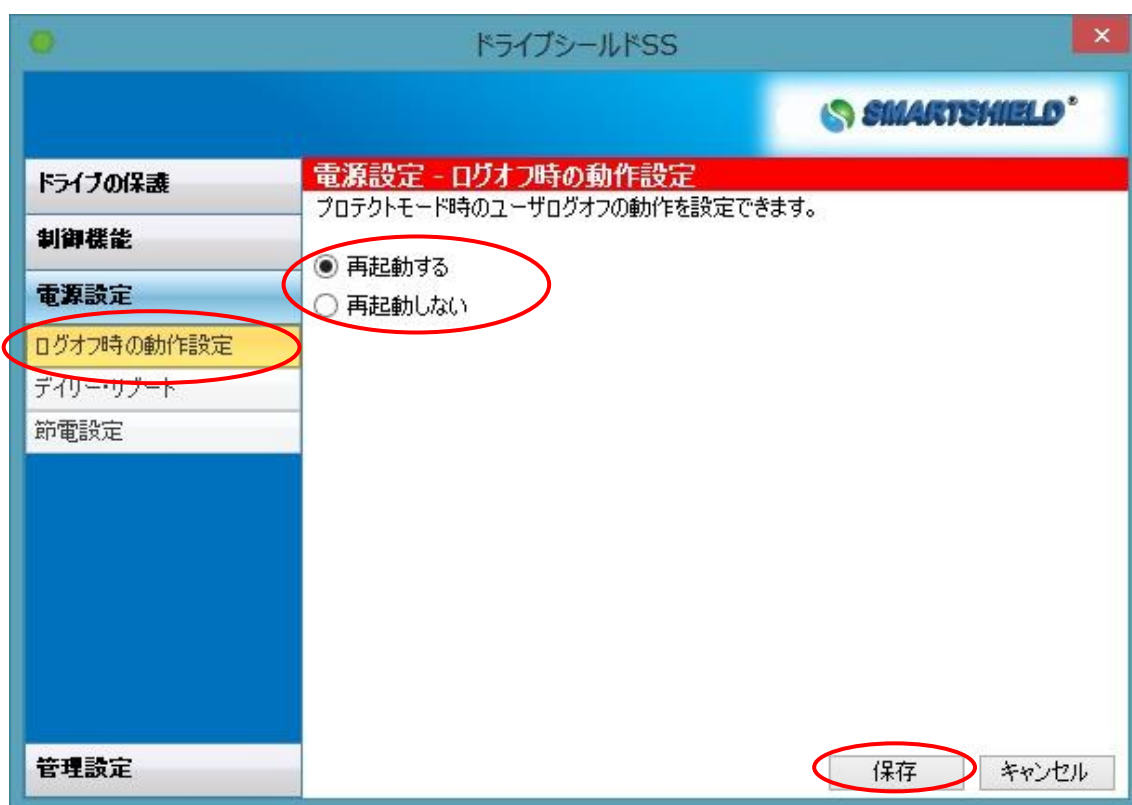
ログオフ時の動作や、自動再起動・シャットダウンの設定を行います。

#### 3.1 ログオフを再起動へ変更する（ログオフ時の動作設定）

ドライブシールド SS の環境復元機能は、コンピュータの電源を再起動することで、一時保存領域に蓄積されたデータがリセットされ、環境が復元されます。従って、「ログオフ」 - 「ログオン」では環境が復元されません。

ユーザがログオフを行った際に、環境復元を行う場合は、この設定を有効にしてください。

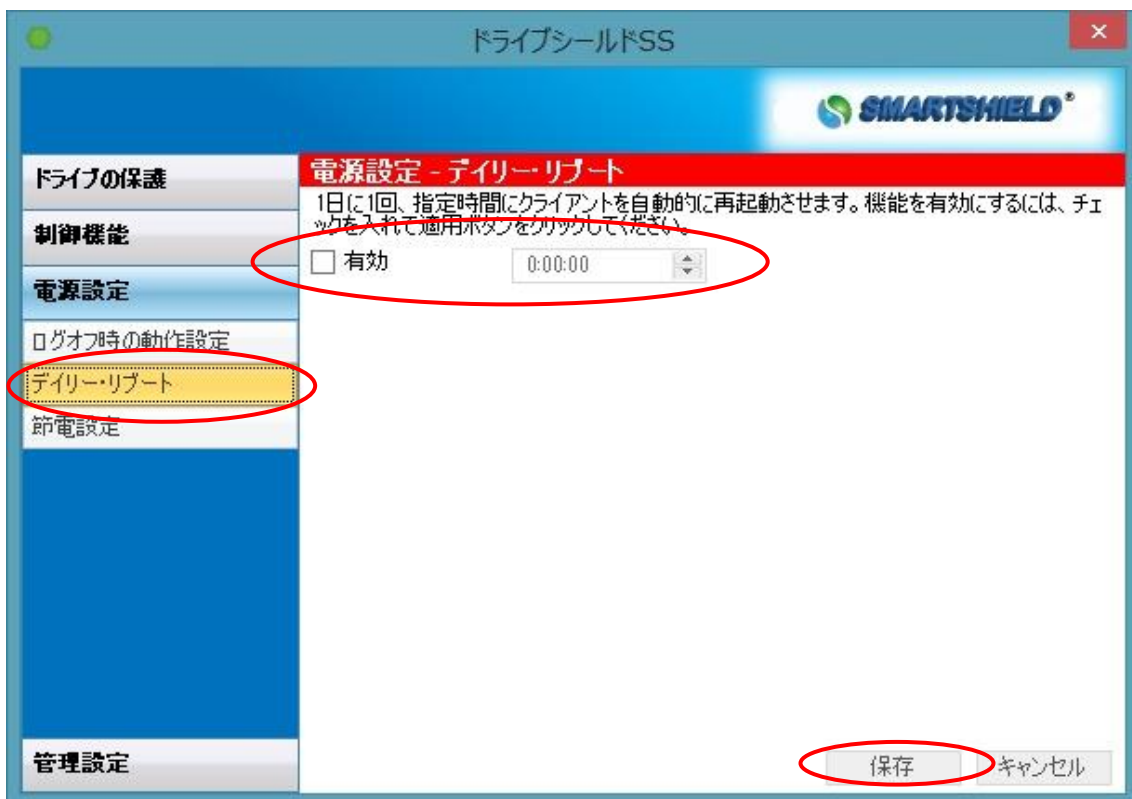
- (1) 設定画面左の [電源設定][ログオフ時の動作設定] をクリックします。
- (2) [再起動する] を選択し [保存] をクリックします。パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し [OK] をクリックしてください。



### 3.2 再起動する時間を設定する（デイリー・リブート）

この設定を行うことで、1日1回再起動する時間を設定できます。

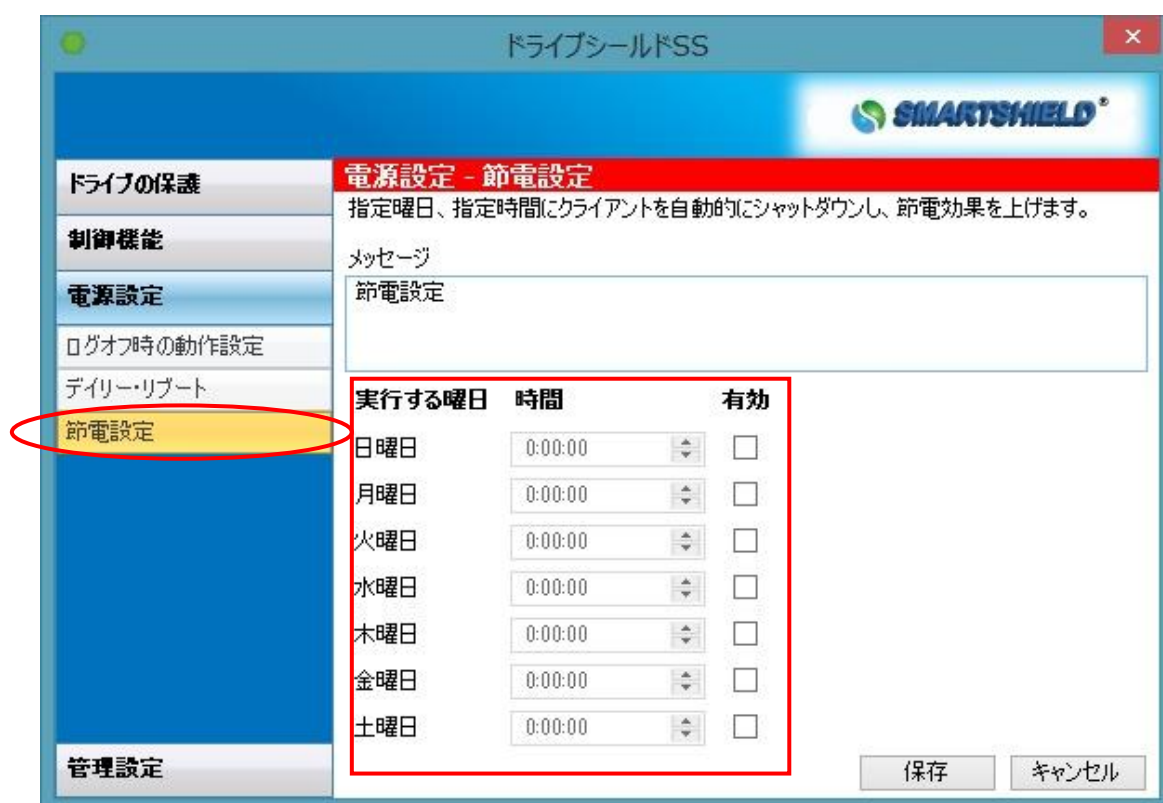
- (1) 設定画面左の [電源設定][デイリー・リブート] をクリックします。
- (2) 「有効」 にチェックをいれ、再起動したい時間を設定します。
- (3) [保存] をクリックします。パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し[OK] をクリックしてください。



### 3.3 指定日時に自動シャットダウンを設定する（節電設定）

指定した曜日と時間に PC の電源を自動的にシャットダウンすることが可能になります。節電対策に効果的です。

- (1) 設定画面左の [電源設定][節電設定] をクリックします。
- (2) 自動シャットダウンする曜日の [有効] にチェックいれ、[時間] を指定します。



- (3) メッセージ欄で指定時間になると表示されるメッセージを変更できます。
- (4) [保存] をクリックします。パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し「OK」をクリックします。設定が適用されます。

## 4 管理設定

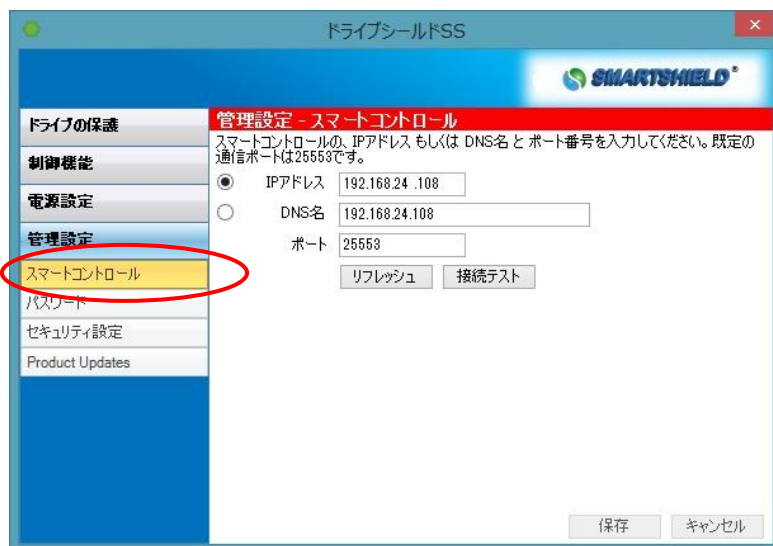
スマートコントロールとの接続設定や、パスワードなどのセキュリティ設定を行います。

\* Product Updates の機能は使用できません。

### 4.1 スマートコントロールとの接続

スマートコントロールとの接続の設定を行います。

- (1) 設定画面左の [管理設定][スマートコントロール] をクリックします。次の画面が表示されます。



- (2)

・IP アドレス

スマートコントロールがインストールされている PC の IP アドレスを入力します。

・DNS 名

スマートコントロールがインストールされている PC の PC 名を入力します。

・ポート

スマートコントロールとの通信を行うポートを設定します。デフォルトの値は 25553 になります。

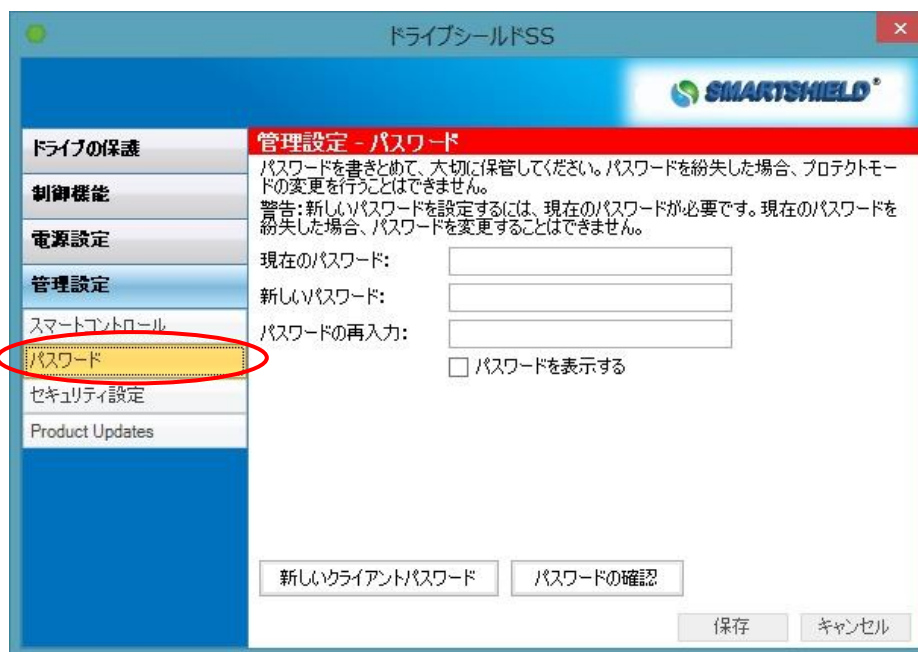
- (3) (2) の設定を変更後 [保存] をクリックします。再起動後、変更が反映されます。ネットワークテストボタンを押すことで、スマートコントロールとの通信を確認できます。

## 4.2 パスワード変更

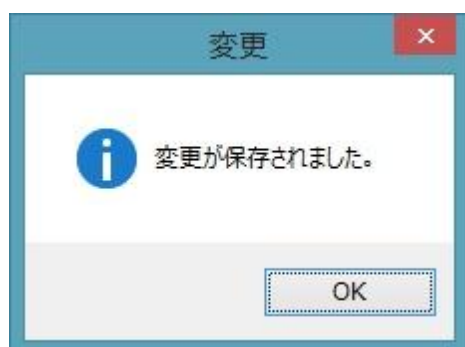
インストール後にもパスワードの変更が可能です。

### 4.2.1 パスワードを変更する方法

- (1) 設定画面左の [管理設定][パスワード] をクリックします。次の画面が表示されます。



- (2) 1 段目に、現在のパスワードを入力します。
- (3) 2 段目に、新しく設定するパスワードを入力します。
- (4) 3 段目に、2 段目に設定した新しいパスワードを再入力してください。
- (5) [保存] をクリックし、次のダイアログが表示されたら完了です。



#### 4.2.2 機能毎にパスワードを設定する

プロテクトモード変更時のみ適応されるパスワードや USB デバイス制御設定変更時のみ適応されるパスワードを設定できます。

- (1) [新しいクライアントパスワード] をクリックします。
- (2) [Password Permissions] 欄より、パスワードを設定したい機能を選択します。
- (3) 「基本設定」からパスワード名やパスワードを設定します。

[パスワード名]

パスワード名を設定します。

[説明]

設定するパスワードに注釈を加える場合はこの欄に記入します。

[パスワード]

設定するパスワードを入力します。

[パスワードの再入力]

確認用にもう一度パスワードを設定します。

「制限設定(任意)」よりオプションの設定を行います。

\* こちらの設定は必要な場合のみ行ってください。

[開始日]

パスワードの開始時期を設定します。

[終了日]

パスワードの終了時期を設定します。

[使用回数]

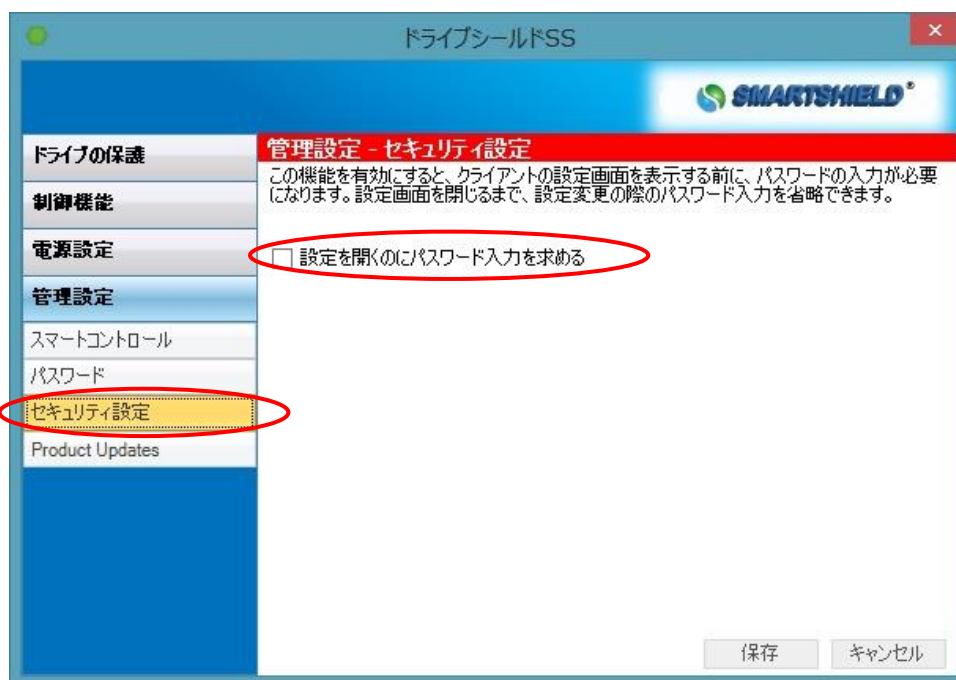
パスワードの使用回数を設定します。

- (4) 「パスワードを保存」をクリックし、インストール時に設定したパスワードを入力します。
- (5) 設定したパスワードは「パスワードの確認」から確認できます。

### 4.3 設定画面を開く際にパスワード入力を求める（セキュリティ設定）

この設定を行うことで、設定画面を開く前にパスワード入力が必要になります。設定画面を閉じるまで、設定変更時のパスワード入力を省略することが可能になります。

- (1) 設定画面左の [管理設定][セキュリティ設定] をクリックします。
- (2) [設定を開くのにパスワード入力を求める] にチェックいれ、「保存」をクリックします。



- (3) パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力し「OK」をクリックしてください。

# コマンドライン

(システムインテグレーター様向けの情報です)

ドライブシールド SS はコマンドラインからも設定が行えます。  
コマンドラインにより、一般的なりモート管理ツールからの管理も容易になります。

コマンドラインツール ( ctsrcmd.exe ) は下記のディレクトリにあります。  
C:¥Program Files¥Centurion Technologies¥Client¥

## 1 ctsrcmd の詳細

status: (現在のステータス)

```
ctsrcmd status
```

current protection: (現在のプロテクト状態)

```
ctsrcmd protection
```

enable: (プロテクトモードへ)

```
ctsrcmd enable -p <password>
```

disable: (プロテクト解除モードへ)

```
ctsrcmd disable -p <password>
```

drives to protect: (プロテクト対象のパーティションの変更)

```
ctsrcmd drives [-add|-remove] <driveletters> -p <password>
```

```
    使用例: ctsrcmd drives -add DE -p *****
```

```
           ctsrcmd drives -remove D -p *****
```

\* Cドライブは常にプロテクト対象になります。

プロテクトの対象にするには、事前に一時保存領域が作成されている必要があります。

一時保存領域は、ctsrcmd create コマンドから作成できます。



usb: (USB ブロッキング)

\* キーボード・マウスのブロックを行う際には、USB デバイスのキーボード・マウスが使用不可になります。スマートコントロールからの制御及びPS/2デバイスのキーボード・マウスからのみ解除が可能です。

```
ctsrcmd usb <usb code list> -p <password>
```

Enter a USB Code for all devices that you wish to block.

All others will be available to the user.

USB Code:	Class Description:
A	Unknown
B	Audio
C	Communication/CD
D	HID: Keyboard/Mouse

\*Changing this Item may effect USB Keyboard and Mouse devices

E	Physical
F	Image
G	Printer
H	Mass Storage
I	Hub
J	CDC-Data
K	Smart Card
L	Content Security
M	Video
N	Personal Healthcare
O	Diagnostic Device
P	Wireless Controller
Q	Misc
R	Application Specific
S	Vendor Specific
ALL	All USB Devices
NONE	No USB Devices

Example: usb DEFNOP -p <password>

Example: usb ALL -p <password>

\* USB キーボードとマウスをご使用の場合、ご注意ください。

Example: usb NONE -p <password>

storage -resize: (一時保存領域のサイズ変更)

ctsrcmd storage -resize <driveletters> -s <size in MB>

\*ドライブレターは、ドライブ名のみです。例) C

storage -create: (特定のドライブに一時保存領域を作成)

\* このコマンドを実行した後は、一時保存領域が10MBのサイズで作成されます。一時保存領域の作成後は、上記のサイズ変更のコマンドを必ず行い、サイズを変更してください。

ctsrcmd storage -create <driveletter (Cドライブは指定できません)>

pstorage: Resize: (仮想ドライブのサイズ変更)

\* 設定後にPCの再起動を行う必要があります。

ctsrcmd pstorage -d <driveletter> -s <size in MB>

pstorage: Mount/Unmount: (仮想ドライブのマウント/マウント解除)

\* 設定後にPCの再起動を行う必要があります。

ctsrcmd pstorage -d <driveletter> [ -mount | -unmount ]

config: (ステルスモードの変更)

ctsrcmd config -stealth [ on | off ] -p <password>

version: (バージョン確認)

ctsrcmd version

directory exclusion:

※この機能は使用できません。

ctsrcmd directory [-add|remove] <path>

    使用例: ctsrcmd directory -add "C:¥somefolder"

          ctsrcmd directory -remove "C:¥somefolder"

optional directory protection: (ODPの設定変更)

ctsrcmd optional -p <password> [-add|remove] <path>

    使用例: ctsrcmd optional -p <password> -add "C:¥somefolder"

          ctsrcmd optional -p <password> -remove "C:¥somefolder"

reboot on client Windows Log Off: (ログオフを再起動へ変更する)

```
ctsrcmd logoffreboot [-yes|-no] -p <password>
```

使用例: ctsrcmd logoffreboot -yes -p <password>

Change the Smart Control: (スマートコントロール接続設定変更)

```
ctsrcmd smartcontrol [IP Address|DNS Name], [Port] -p <password>
```

使用例: ctsrcmd smartcontrol 10.10.1.1,25553 -p <password>

使用例: ctsrcmd smartcontrol MyServer,25553 -p <password>

\* 設定後に PC の再起動を行う必要があります。

Change keyboard and mouse blocking: (キーボード・マウスブロック)

```
ctsrcmd kbmouse block -p <password>
```

\* この設定を行うとユーザのキーボード・マウスがブロックされます。

```
ctsrcmd kbmouse allow -p <password>
```

\* この設定を行うとユーザのキーボード・マウスが有効になります。

Clear the WSUS/SUS Update server information: (WSUS/SUS サーバ設定の解除)

\* この設定を適用するにはプロテクト解除モードにする必要があります。

```
ctsrcmd clearupdateserver -p <password>
```

## 2 具体的な使用例

-[準備]

コマンドプロンプトを起動します。

そこで、以下のとおり、入力してください。

```
cd c:\Program Files\Centurion Technologies\Client[Enter]
```

### 2-1 プロテクト解除モードにする場合

(1) 次のように入力してください。

```
ctsrcmd disable -p <password> [Enter]
```

(password の部分には実際に設定したパスワードを入力してください。また、スペースも正確に入力してください。)

(2) OK. と表示されれば成功です。コンピュータを再起動後にプロテクト解除モードになります。

### 2-2 プロテクトモードにする場合

(1) 次のように入力してください。

```
ctsrcmd enable -p <password> [Enter]
```

(password の部分には実際に設定したパスワードを入力してください。また、スペースも正確に入力してください。)

(2) OK. と表示されれば成功です。コンピュータを再起動後にプロテクトモードになります。

# アンインストール

アンインストール方法は、OS により手順が異なります。ご注意ください。

\* アンインストールは必ずプロテクト解除状態で行ってください。

(1) -A Windows 8/Windows 7/Vista の場合

Administrator 権限でログオンし、[コントロールパネル] の [プログラムと機能] 又は、ドライブシールド SS のインストーラをダブルクリックします。

(1) -B Windows XP の場合

Administrator 権限でログオンし、[コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] 又は、[アプリケーションの追加と削除] をダブルクリックします。

(2) Smart Shield を選択し、[アンインストール] または [削除] をクリックします。

(3) 次のダイアログが表示されます。仮想ドライブ内のデータがすでにバックアップ済みの場合は、[Next] をクリックします。

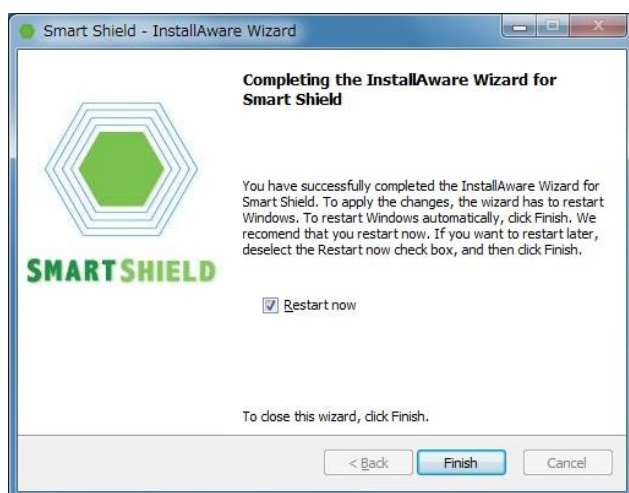
\* アンインストールを行うと、仮想ドライブ内のデータは失われます。ご注意ください。



- (4) 次のダイアログが表示されたら、[Uninstall]にチェックを付けて、[Next] をクリックします。



- (5) もう1度 [Next] をクリックした後、アンインストールが開始されます。[Finish] をクリックしてください。再起動します。



- (6) 再起動後、アンインストールが完了します。

# お問合せ先

ドライブシールド SS ユーザサポート窓口

平日 9時～12時 13～17時

株式会社アイ・ディ・ケイ（本社営業部）  
〒242-0021 神奈川県大和市中央 7-9-1

Fax:046-200-0765  
hdg\_support@idk.co.jp

Q&A サポート  
<http://www.idk.co.jp/products/pcprotecttool/ds-support/qa.php>

※ 記載されている社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

